



25 墨梅図 王冕 一幅

絹本墨画 中国・元時代(十四世紀)
本紙一四四・八×九七・〇

梅は厳寒の中で、美しく香しい花を咲かせ、春の訪れを告げるものであることから、松竹と共に厳寒三友、蘭菊竹と共に四君子と讃えられてきた。そして、林和靖をはじめとした文人に愛され、多くの詩文にも詠われて、宋元時代以降は墨梅図が盛んに描かれた。北宋末の蘇軾(東坡)や南宋の楊无咎(補之)、華光仲仁らがその名手として知られている。

本図を描いた王冕(一二八七?~一三五九)は、彼らの水墨画法をさらに本格的なものとして後世に大きな影響を与えた画家である。「君台觀左右帳記」にもその名は見え、わが国にも早くからその名が知られていたことが分かるが、現在、欧米も含めた王冕の遺品は数少なく、当時の渡来は極僅かであったと考えられる。本図は貴重な一作である。

画面上部に記される詩は、西湖孤山の夜梅を暗示し、敬安という人のために描いたと詠う。岩陰からうねるように太い幹が伸び上がり、細い枝が上へ上へと向かって花を咲かせる様は、若冲の梅花図のヒントにもなっているのではないだろうか。また、探幽ら、狩野派の画師らもこうした絵の模写を行った。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花鳥―愛でる心、彩る技（若冲を中心に）

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 40

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十八年三月二十五日発行

©2006, The Museum of the Imperial Collections